

8月の巡回指導の結果

<8月の育成指導重点事項>

	交通関係	その他	合計
小学生	7件 (11人)	2件 (2人)	9件 (13人)
中学生	5件 (12人)	2件 (23人)	7件 (35人)
高校生	0件 (0人)	0件 (0人)	0件 (0人)

- 夏季休業中の児童生徒の校外生活指導や交通安全指導
- 夏祭り及びその前後における児童生徒の校外生活指導
- 万引きその他非行防止のための商店などの巡視

※ 交通安全関係における主な指導内容
自転車乗車時のヘルメット着用

※ その他の主な指導内容
危険な川遊び・迷惑行為の注意喚起
時間外外出(20:00以降)

教育相談室より

8月の教育相談の状況

相談場所：リナシティかのや2階
福祉プラザ内

	件数	相談内容
健全育成に関すること・・・1	1	ネット詐欺(専門的な対応機関を紹介)
学校生活に関すること・・・2	2	先生との関係(学校との連携の在り方)
家庭生活に関すること・・・7	7	昼夜逆転・ゲーム依存・しつけ等
関係機関等との連携・・・5	5	情報交換

月～金 9:00 ～ 16:30
電話相談
0994-44-8799
0120-555-655
FAX相談
0994-44-8799

不安や悩み、話すことで少し楽になりますよ。まずはお電話ください。



指導内容の報告

◎ 育成指導委員(7・8月の報告より)

- ◇ 前を歩いてる列を追い越すために、車道に飛び出し、走って列を追い越している子がいて車が来たのに危ないと感じた。
- ◇ ヘルメットをかぶらず、自転車に乗っている児童を見かけます。
- ◇ たまり場になっていて行きたくないなあと思うような所はありませんでした。

◎ あおぞら号巡回(8月 育成指導員より)

- ◇ 上野町高橋ポンプ場付近の高須川で遊んでいた中学生男子20人位に気をつけて遊ぶこととゴミを散らさないように指導する。
- ◇ 上野町の市道で中学生男子7人がノーヘルで自転車に乗っていたので、ヘルメットの着用を指導する
- ◇ 新川町の市道を小学生男児2人がノーヘルで自転車に乗っていたので、ヘルメットの着用を指導する。



あおぞら号

⚠ 不審者情報 ⚠

日時 : 8月5日(水) 17:20頃 【8月12日(水)に解決 県警あんしんメールより】
場所 : 鹿屋市打馬1丁目4番付近の路上
内容 : 男子中学生が複数で通行中、車の運転手の男から「車に乗れ。名前を言え。」などと声を掛けられました。その後、男は車で走り去りました。
男の特徴 : 50歳代、中肉、茶色短髪、黒色の自動車使用

日時 : 8月29日(土) 18:30頃 【9月1日(火)に解決 県警あんしんメールより】
場所 : 鹿屋市浜田町国道269号線沿いの敷地内
内容 : 女子高校生が複数で敷地内にいたところ、下半身を触っている男から卑わいな言葉を掛けられました。その後、男はその場から立ち去りました。
男の特徴 : 70歳位、身長170～180cm位、小肥り、スキンヘッド、緑色の半袖、黒色の半ズボン着用

「地域が支え、学校がつなぐ」

鹿屋市立大始良中学校 校長 塩屋 親徳

大始良中学校は、鹿屋市南西部の大始良川流域にあり、横尾岳や南岳などの山地に恵まれた自然豊かな台地に位置し、広大な敷地に県内最大級のグラウンドを有する学校です。開校は昭和21年、今年度で創立80周年を迎えます。本校で勤務して感じているのが、子供たちの表情が良く、地域が協力的であるということです。

その理由として、本校の沿革史に「平成10年(1998)標語塔『うちの子をしかってくれてありがとう』設置」という記述があげられます。この標語塔は、地元の住民グループの呼び掛けにより、「家族の力に地域の力を加えて、みんなで子供たちを育て、地域を盛り上げよう」という願いが込められ設置されたそうです。幹線道路沿いの目立つ場所に設置することで、地域住民の意識を高めることにつながっていたようです。他人の子供であっても、悪いことは正し、良いことは共に喜ぶ。そんな信頼関係があるからこそ、子供たちは守られているという安心感の中で伸び伸びと育ち、子供たちの良い表情につながっているのだと思います。

この標語塔は古くなり、数年前に撤去されていたそうですが、昨年度、地域の方々のご協力により、新しい標語塔として再設置されました。新しい標語塔のもと、日常的な声掛けや見守りなどをしていただきながら、これからも子供たちの成長に協力していただければ有り難いです。

もう一つの理由は、子供たちが伝統を肌で学ぶ機会があることです。中学校1年生の「総合的な学習の時間」では、地域の伝統「棒踊り」の継承に取り組んでいます。2学期になると地域の方々が直接学校に来校して、子供たちに熱心に踊

りの技を指導してくださっています。子供たちも真剣に技を教わり、一生懸命練習に取り組み、文化祭のステージで見事な踊りとして披露しています。地域の伝統が次世代へと確実に引き継がれる瞬間となっています。地域が学校を支え、学校が地域の伝統を未来へつなぐ。この温かい循環こそが、私たちの地域の何よりの財産になっていると思います。

このように、私たちの地域には共助の心を育む「うちの子をしかってくれてありがとう」を合言葉とした、家庭の垣根を越えて地域全体で子供たちを見守り、育てる文化があります。また、地域の伝統「棒踊り」を次世代へ引き継ぐ取組は、世代を超えた信頼を育て、私たちの絆をいっそう強く結びつけてくれています。今後も学校と地域が連携しながら、健全な子供の育成に取り組んでいきたいと思っています。

